

乙訓平和委員会ニュース

発行年日 2023年5月5日 No.449 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

新しいポスターができました 核兵器禁止条約の批准を求める署名運動推進の力に

「日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名」運動が進められています。各地域・団体で署名運動が取組まれています。昨年来のロシアのウクライナ戦争は、核兵器をめぐる情勢を一変させています。

核保有国のロシアが、非核保有国のウクライナに侵攻し、核兵器の使用も除外しない態度で、国際社会を威嚇しています。またこの戦争では、イギリスがウクライナに劣化ウラン弾の供与を決め、ロシアはベラルーシに核配備をすることを表明しており、核兵器禁止条約でいずれも禁止していることをしていますが、核兵器禁止条約が現在はロシアの手を縛っています。

日本政府はこの情勢をチャンスとして防衛力強化を口実に、専守防衛から積極的防衛と根本方針をなし崩しに大転換へ動いています。そのため、軍事費を倍加する道を通っています。その財源は、国民の負担を大幅に増やす増税の道です。自衛隊を単なる軍事組織から、国の「正規の軍隊」へと変えるために憲法を変える動きが強まっています。

これらの動きに対して、各種の世論調査では国民の多数は政府の方向とは異なる結果を示しており、綱引き常態で国民の声が果たす役割が非常に大きくなっています。

新しいポスターを希望者に届けます

日本政府の大軍拡への動きを止めるためにも、核兵器禁止条約の批准を求める署名運動が大きな力となります。乙訓の署名運動は、自覚した人の活動にとどまっているのが率直な現状です。今回、いわさきちひろ「立てひざの少年」の絵

をデザインした新しいポスターが作られました。新らし署名用紙もできました。これらを活用して、署名運動を進めましょう。新しいポスターを希望者に届けます。乙訓平和委員会でも扱っていますので、事務局に連絡ください。



(2頁に別記事)

「本」の紹介 千々和泰明 著

「戦争はいかに終結したか」 二度の大戦からベトナム、イラクまで キーワードは「現在の犠牲」と「将来の危険」 過去の戦争終結から条件を解明した書

ロシアのウクライナ侵攻は、1年を越えて継続中です。5月にはウクライナ軍が大規模な攻勢に出るとしきりに報道される中で、戦争は今年中には終わらないとの見方が増えています。昨年、プーチン大統領がウクライナへの「特別軍事作戦」と称して、戦争を始めた当初とは、相当に異なる展開になっているようです。

この戦争は、第二次世界大戦後のヨーロッパでは初めて経験する、二つの国の正規軍が衝突する大規模・長期の戦争となっています。また、新旧の兵器を総動員して、それぞれ使用する場ともなっていますし、それぞれ支援する国が保有する旧式兵器や在庫品の一掃処分の様相も示しています。いつ終わるか見えない戦争で、軍民の犠牲者が増大する一方で、一刻も早く戦争終結を求める世界の人々からは、戦争の行方に関心が集まっています。

本書は、ウクライナ戦争以前の2021年7月に出版された本ですが、ここにきてタイムリーなテーマの書となっています。

著者は、内閣官房副長官補付で安全保障・危機管理の実務に携わった外交研究の政治学者です。その経験から日本の安全保障への教訓をまとめ、次への出口戦略を考えるために本書を出しています。

過去の戦争から見える共通点

第一次・二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争からアフガニスタン、イラク戦争を取り上げ、戦争の開始から終結までを分析し、いかにして終わったのかを解明しています。そこには、戦争の目的とその達成状況に伴い、「現在の犠牲」と「将来の危険」という各要素のバランスによって、当事者たちがどう決断するかで「戦争終結」が決まったと解明しています。それぞれ異なりますが、詳しく書かれています。

チャーチルの英国は民主主義のために、ハノイは民族の独立のために、「現在の犠牲」に耐え受け入れる覚悟で戦争したものの、2度の核攻

撃とソ連参戦で受けた損害の大きさと相殺され無条件降伏しました。

ドイツは「将来の危険」を重視した連合国により、ナチス政権・体制の崩壊とドイツ国土の占領をもって戦争が終結しました。

朝鮮戦争は、「現在の犠牲」と「将来の危険」のバランスから停戦には至りました。しかし、外交的には戦争状態が継続して、今の北朝鮮の動きにつながっています。

ベトナム戦争は、共産主義がアジア諸国に広がる「将来の危険」よりも、米兵の死傷者が増え続け莫大な戦費を負担する「現在の犠牲」に耐え切れず、米軍の撤退と南ベトナム国家の崩壊で戦争が終わりました。本書では触れられていませんが、米国はベトナムに対しては枯葉剤被害など戦争の後始末をしないままですし、日本の原爆被害に対する責任もとっていません。

ウクライナ戦争での「将来の危険」と「現在の犠牲」は、いつどこで交差するのか注視する必要があります。（文責：米重節男）

中公新書
定価 1012 円
(10%税込)

